

第三期岩崎式日本語と水海道方言の比較

宮島達夫説 (有無両方)	佐々木冠説 (有無両方)	水海道方言		現代日本語との対応	
		有生物	無生物		
はだか格	主格	φ	φ	が、は	
目的格	対格	ごど	φ	を	
ゆくさき格	与格	げ	さ、へ	へ、に	
場所格(連用)	位格	に	に	へ、に	
能力格	経験者格	がに	/	が、は(主格に一致)	
道具格	具格	で	で	で	
もちぬし格	属格	が	の	の(「が」は「我が道」など限定的)	
場所格(連体)	場所格(連体)	/	な	の	
第三期岩崎式日本語の解釈 (左が行為、右が状態)		水海道方言		第三期岩崎式日本語真格との対応	
		行為	状態	行為	状態
空識間格	空識間格	φ	φ	φ	φ
対格	絶対格	ごど	φ	を	φ
希格	及希間格	げ	さ、へ	んの	での
及格	及格	に	に	で	で
能格	/	がに	/	の	/
具及間格	具及間格	で	で	一で	一で
具格	識具間格	が	の	んで	ん
/	識格	/	な	/	φ

岩崎純一
Copyright (C)
<http://www.iwasaki-j.sakura.ne.jp/>